

奥羽大学歯学部 ONE TEAM!

川 鍋 仁

はじめに、台風19号による被害に遭われた地域の皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、1日も早い復旧をお祈り致します。

「ONE TEAM」本年のラグビーワールドカップでこの言葉をもとに一体となり決勝トーナメントに進出したラグビー日本代表。大会開催期間中、試合の視聴率は40%を超えるほどの国民の関心事となりました。これまで、ラグビーの認知度は低くあまり注目されていませんでした。しかし、日本代表の選手たちは、その様な状況でも厳しい練習を行い努力してきたと、メディアで伝えられています。その努力により、歴史的にこれまで達成できなかった史上初の決勝トーナメント進出することができました。また、これまで格上で、到底互角に戦える相手でなかった国の代表にも勝ち抜く組織力をつけてラグビーW杯に望んでいました。選手は、試合後の会見で準備の大切さ「ONE TEAM」で戦うことが大切であると述べていました。

一方、奥羽大学は歯科医師国家試験合格率が全国でもまだまだ低い状況となっており、ご父兄や卒業生の皆様はご心配されていることと思います。本学も、日本代表のように全職員が「ONE TEAM」となって努力をしなければならない。この精神にて教員および事務職員が学生教育に全力を注ぎ、全学生が歯科医師国家試験に合格するように努力する必要があります。また、奥羽大学歯学部附属病院においては、歯科医師、医師、薬剤師、看護師、放射線技師、衛生士、歯科技工士、栄養士および医療事務全員の力を合わせて福島県の歯科医療を支える必要があります。

今一度、ラグビー日本代表の選手に目を向けますと、日本代表ナンバー8 姫野和樹選手の「ジャッカル」という技。これは、ピンチの状況を逆転するための技で、非常に高い技術を必要とするそうです。この技は、日々の努力により姫野選手が獲得した世界でもトップレベルの技術だそうです。ラグビーは、チームプレーも大切ですが、姫野選手もラグビー日本代表になることを夢見て個の技術を向上させたそうです。

私も、奥羽大学卒業後、いつの日か奥羽大学で教員になることを夢見て、個の技術を高める努力をしてきました。私は、23期生ですが卒業して早いもので20年経過しました。卒業後、福岡歯科大学で臨床研修医として勤務後に福岡歯科大学の矯正歯科で大学院を卒業し、学位を取得後に歯科矯正学の認定医を取得しました。その後、民間の歯科病院にて口腔外科、インプラント治療、歯周病治療、補綴治療、保存修復治療および歯科麻酔に関する知識と技術を身につけてきました。さらに、私の学位論文のテーマで、ライフワークである口唇口蓋裂患者に対する治療技術を身につけてきました。卒後14年間、奥羽大学の一員として最高のパフォーマンスができるようにこれまで努力してきました。そして6年前に念願であった奥羽大学の教員として奥羽大学の一員になることができました。

した。私が母校に戻らせていただいたのは、

- ①私を歯科医師として育てていただいた、奥羽大学に恩返しをしたい。
- ②我が母校を、日本で一番国家試験合格率が高い大学にしたい。
- ③福島県の歯科医療を盛り上げ、日本最高峰の治療水準にしたい。

この3つの思いで母校に帰ってきました。

今回は、私の中にある教育理念および臨床理念について記載させていただきたいと思っています。

まず、教育理念ですが、学生は全て私の可愛い後輩であります。この後輩たちが少しでも理解できる様に、興味を持って学習できる様に講義のスライドや資料は何回も見直しブラッシュアップを必ず行っています。また、学生が質問しやすい様な環境を与える様に心がけています。授業中には質問が出来ない学生も多いので、授業終了後や夕方などいつでも遠慮することなく、われわれ教員を学生が利用する様に伝えております。さらに、学生が将来的に、私のことを歯科医師目標像としてくれる様に日々努力しています。これにより、国家試験合格率の向上につながると考えています。

次に、臨床理念ですが、出来ない歯科治療を無くして、治療技術や知識の向上のために努力を惜しまないことです。一つ例に挙げますと、前述の通り私のライフワークである口唇口蓋裂患者に対する治療技術の向上です。具体的には、口唇口蓋裂児が出生すると初回口唇形成手術前までに行う術前鼻歯槽形成 (PNAM) の治療技術です。私は福岡歯科大学でこの PNAM の技術を身につけさせていただきました。PNAM を勉強させていただいた15年前は、全国でも行うことができる施設はほとんどなく、5施設程度のみでありました。しかし、少しずつこの治療が普及し、近年では口唇口蓋裂の治療を行う多くの施設で行うことができるようになってきました。しかし、6年前私が福島県に戻るまで PNAM を行う施設は福島県にはありませんでした。奥羽大学で福井和徳教授の許可のもと治療技術を福島県に導入させていただいたことで、近隣の総合病院などと連携して口唇口蓋裂患者に対するチーム医療を行うことができる様になりました。現在では福島の医療が「ONE TEAM」になり口唇口蓋裂児に対してより良い治療ができるそのチームの役に立てる存在に奥羽大学が参画しております。

さらに、福島県立医科大学形成外科との医療連携にて日本でも2施設しかできない口唇形成術、口蓋形成術、歯肉骨膜形成術を同時に行う1期治療を行っています。

奥羽大学が日本で最も輝く大学になる様にこれからも全職員一丸となりスクラムを組み前進しましょう。

まさに、奥羽大学「ONE TEAM」!!

このように、ラグビー日本代表を例に記載させていただきましたが、私はラグビーのにわかファンであります！

(奥羽大学歯科矯正学成長発育歯学講座)